駄洒落で東武亀戸線

出発進行～♪

浩「オッカァ、もう歩くの疲れたど」
清「……」
母「分かった分かった、今日はもう仕舞いにすんべ」
浩「何処さ泊まるだ？」
☆母はポケットからしわくちゃなメモ用紙を取り出した。
母「確かこのへんにちげぇねぇんだども…」
浩「ホテルけ？」
清「……」
母「ホテル？　ヒロス、そったら外国語、どこで覚えたぁ？」
浩「外国語ぉ？　ホテルって、日本語じゃ、ねぇのけぇ？」
清「……」
母「違うのけ？」浩「違うんでねぇかぁ、なぁ兄貴ぃ」
清「…ホテルは…ホテル語でねぇか？」
母「キヨスは物をよう知っとるのぉ」
浩「ホテル語かぁ…それじゃ、ホテルって国があるだね」
清「…んだ…」
母「じゃが今日はそのホテルってのじゃ、ねぇ」
浩「じゃ、ユースホステスけ？」
清「……」
母「なんじゃ、また外国語使って」
清「…ユースホステス語…」
浩「兄貴ぃ、すっごいのぉ」
母「じゃっど、そのユウヅルホステスでもねぇど」
☆三人は、ゆっくりした足取りで夜の街をさまよい、古ぼけた安宿の前に着いた。

母「おぉ、ここだここだ」
浩「何じゃ、こりゃオラたちの家と変わんねど」
清「……」
母「しっかたねぇど、ほら、へぇったへぇった」
浩「くたびれたから、オラもうすぐ寝てぇがや」――。
☆そして三人が通された部屋は、三畳間だった。
浩「ほれ？　オッカァ、ベッドじゃねぇのけ？」
清「……」
母「ベッドって寝床け？　そんなもん自分たちで仕度したらえぇ」
浩「チェッ！」
清「……」
☆母は押入れの襖を開け、清と浩は布団を並べ始めた。
浩「シーツはねぇのけ？」
母「何だヒロス、シーツってのは？」
清「…シーツ語だ…」
母「シーツ語け？」
浩「あぁ、あったあった」
母「なぁんだヒロス、シーツってのは、敷布ね…」

（小村井-15・10・28）

◆

東武亀戸線は、墨田区曳舟と江東区亀戸を結ぶ駅数5駅の短い路線だ。その日私は、その東京ローカル路線の曳舟駅から二つ目で降り、街を歩いた。
天邪鬼の私のこと、表通りは好きになれないので、いつものクセで歩いたのは路地裏だ。
さすが墨田区、街は家族経営らしい小さな工場が並んでいた。街がどことなく油臭いのは、そのためだろう。昼休み時分で、とても静かだった。
5分も歩いたろうか。油臭を打ち消す、炒め物のいい

香りがしてきた。
匂いの元は、洋食屋さんだった。私も腹が減ってきた。
今日のお昼はココに決めた。
本日のお勧めの書かれた看板がまた、大いにそそられたからだ。
「当店が本家本元！　元祖老舗‼」
よくぞしつこく並べたものだ。何が本家なのか。
「なるほど…」
その先を読んで、私は一人ごちた。
「小村井's　オムライス」
（小村井-15・10・01）
※小村井＝「おむらい」と読む。

◆

ベテラン万年平社員の忍壺さん、社内ではちょっとケムたがれている存在です。
あなたの職場にも居ませんか？
背後に回って、肩を慣れ慣れしく揉む先輩…。
「狐狸方く～ん、元気ぃ～～～♪」
「ヒャッ！　指圧魔‼」
だから忍壺さん、みんなからそんな愛称で(?)呼ばれています。
（東あづま-15・11・30）

◆

小高い丘に広がった空き地に、老若男女が三々五々、集まってきた。
リーダー格らしき二十代後半の女性が腕時計を見た。
「これで全員ね」
集まったのは、総勢約20人といったところである。
「さぁ、みんな、手を繋いで輪になるのよ」
女性は声をかけた。他の者たちはリーダーに黙々と従

っている。
「信じて！　今日こそ必ず逢えるはずよ」
丘の上に、大きな人の輪ができた。中心に立つのはリーダーである。
「さぁ、念じて！　余計なことは考えないで」
全員が空を凝視する。空は暮れかかっている。星が一つ、また一つ、現れ始めた。
「あそこよ！」
リーダーが輪の中から天空を指差した。
「さぁ、声に出して祈るのよ」
輪からブツブツと念仏らしき声が漏れ始めた。
「ダメ！　貴方たちは逢いたくないの？　もっと大きな声で」
ブツブツが大きくなった。
「そんなんじゃ、来てくれないわ。もっと大きく！　さぁ」
次第に声が揃い始めた。
「そう、もっともっと、大きな声で！」
輪の声は、大きな唸りになった。
『カミ～～～ン！　土星人～～～』
（亀戸水神-15・08・17）

◆

ハ～ィ、エブリバデ～！
ゴキゲン・イカガデスクァ～？
トゥデイモ、助動詞”ノオ勉強ヲイタシマショウ。
ソレデハ　昨日ノ復習　カラマイリマショウ。
私ガ日本語ヲ喋リマスカラ英語ニ訳　シテクダサ～ィ！
エブリバデ～　オッケ～？

私　ハ　スルコト　ガ　出来ル。

〝I can do！〟
父 ハ スルコト ガ 出来ル。
〝My father can do！〟
テンポ ヨク イキマショウ！
母 ハ スルコト ガ 出来ル。
〝My mather can do！〟
クイックリ～！
兄 ハ スルコト ガ 出来ル。
〝My brother can do！〟
ハリ～ ハリ～！
姉 ハ スルコト ガ 出来ル。
〝My sister can do！〟
ＯＫ！
グッジョ～ブ！
イィ 調子デ～ッス。
ツギハ 疑問形 デ～スッ！
私 ハ スルコト ガ 出来マスカ？
〝Can I do？〟
ＯＫ！
クイックリ～！
貴方 ハ スルコト ガ 出来マスカ？
〝Can you do？〟
ハリ～ ハリ～！
彼 ハ スルコト ガ 出来マスカ？
〝Can he do？〟
彼女 ハ スルコト ガ 出来マスカ？
〝Can she do？〟
姪 ハ スルコト ガ 出来マスカ？〟
〝Can May Do？〟
ＯＫ！ グッ、ジョ～ブ！

エクセレン‼

（亀戸-15・11・12）

お客さん、終点でーす。